



太田裕貴 (Hiroki Ohta)
東京慈恵会医科大学
総合医科学研究センター 再生医学研究部
サンフィールド医院

【抄録】

2012年の山中伸弥氏ノーベル賞受賞を契機として、再生医療は世界的な注目を集め、幹細胞治療も急速な発展を遂げています。日本では当初法的規制が未整備でしたが、2013年「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」制定により、現在は厳格な管理下で実施されています。

演者は東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部講師として基礎研究に従事する一方、サンフィールド医院統括院長として第一線の臨床に携わり、研究と実臨床を両輪とした幹細胞治療のエキスパートです。サンフィールドクリニックは2011年開設以来、日本屈指の幹細胞治療専門施設として発展し、現在は動脈硬化症と慢性疼痛治療に特化しています。

東京慈恵会医科大学では、演者が中心となって幹細胞治療の有効性に関する包括的検証を実施しており、基礎研究と臨床データの解析を進めています。本講演では、日本における幹細胞治療の現状と法的枠組みを整理した上で、当院の治療プログラムの詳細と、これまでに得られた臨床成績を具体的にお示しします。さらに、大学での最新研究成果を複数供覧し、エビデンスに基づいた幹細胞治療の将来展望について、実臨床の視点から具体的な可能性と課題を提示いたします。再生医療の実用化に向けた現在進行形の取り組みを、研究者かつ臨床医の双方の立場からお話しします。

【略歴】

2001年に東京慈恵会医科大学を卒業し、同年より国立水戸病院（現・国立病院機構水戸医療センター）で初期臨床研修を開始した。その後、2005年に東京慈恵会医科大学附属病院外科レジデントとなり、2006年から附属第三病院外科、2007年から本院の外科学講座血管外科に所属し、血管外科分野における専門性を深めてきた。

2017年には東京慈恵会医科大学大学院を修了し、医学博士の学位を取得。2018年からは東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター再生医学研究部の助教として研究活動を開始し、2021年より講師。これまでに医師免許、外科専門医、脈管専門医・指導医、血管内治療認定医、再生医療認定医、腹部および胸部ステントグラフト指導医など、多数の専門資格を取得している。

研究では、ラットを用いて脳梗塞をはじめとする虚血性疾患に対する新規治療法の開発を目指し、独自に開発した方法でモデル動物を作製している。これにより、再生医療を中心としたさまざまな治療介入の前臨床評価を行っている。また、小型霊長類であるマarmoセットを用いた前臨床研究にも取り組み、ヒトへの応用を見据えた橋渡し研究を推進している。

【所属学会・所属団体】

日本再生医療学会認定医
日本外科学会専門医
日本脈管学会専門医/指導医
日本血管外科学会血管内治療認定医
ステントグラフト指導医
麻酔科標榜医

